



桐の木

下伊那郡松川町上片桐2930番地
Tel (37) 2004 Fax (37) 3278
Mail matukita@bz04.plala.or.jp

学力向上に向けて ～令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果より～

本年度、6年生を対象に実施しました全国学力・学習状況調査に関して、本校での分析結果の特徴的な部分について報告いたします。

1 松川北小学校6年生の平均正答率と長野県平均・全国平均との比較

県・全国平均と比べ、国語、算数ともに大幅に上回る結果となりました。

領域別にみると、国語は「書くこと」において、全国平均よりも8ポイント程度高い結果となっています。また、知識・技能面の定着が図られており、言葉の特徴や使い方、情報の扱い方に関する理解が十分にできていました。ただ、「読むこと」に関して、県・全国平均より若干低めの結果となっている問いもあり、文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめること等に課題が残りました。

また、算数は「数と計算」や「データの活用」に関しては県・全国平均より10～13ポイントほど上回っているものの、「図形」の意味や性質に関する問いについては若干下回っており、領域によって定着に差があることが伺えました。

算数の「図形」分野の正答率が低い傾向は、ここ数年続いています。改めて解答類型を比較、分析してみたところ、問いの文章や選択肢に用いられている表現の読解や複数の条件を満たして自分の言葉で書き表すところに課題があることが明らかになっているので、どの学年においても「思考力、判断力、表現力等」の育成に向けた授業づくりを行っていきたいと思います。

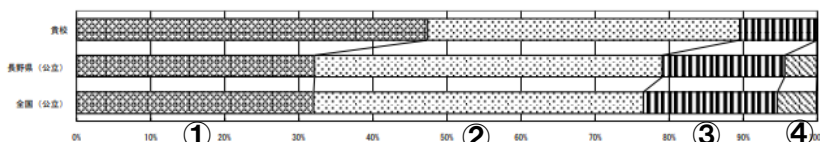
2 松川北小学校6年生の児童質問紙から見てきたこと

全国学力・学習状況調査では、学習や生活に関して、様々な視点から児童に質問をしています。その中から見てきた本校6年児童の傾向について以下に挙げます。

【グラフは、最上段…本校、二段目…長野県 下段…全国】

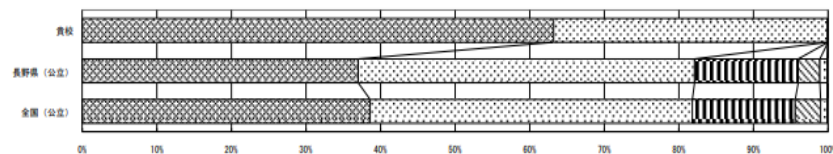
(1) 生活全般について

- ①自分と違う意見について考えるのは楽しいと思っている児童が多い

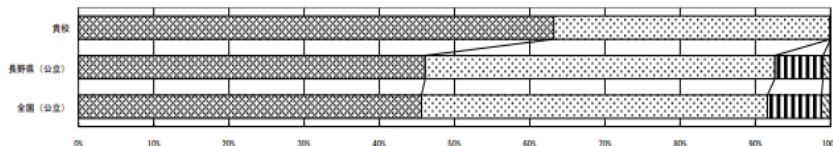


①当てはまる ②どちらかと言えば当てはまる ③どちらかといえば当てはまらない ④当てはまらない

- ②学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる児童が多い

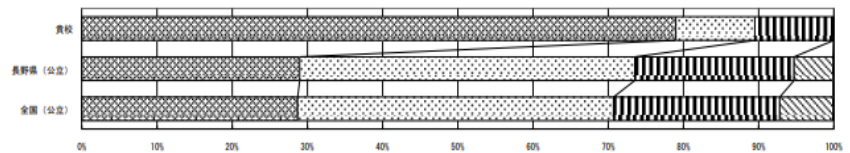


- ③人が困っているときは、進んで助けている児童が多い

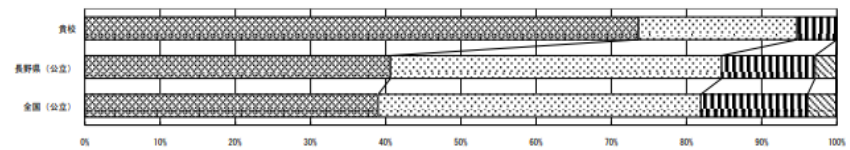


(2) 学習について

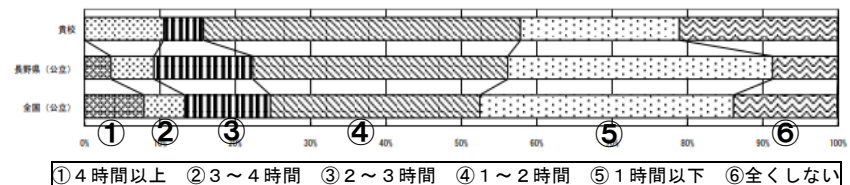
①家で自分で計画を立てて勉強をしている児童がかなり多くなってきている



②授業で学んだことを、ほかの学習で生かしている児童が多い



③学校が休みの日に勉強している時間が少ない傾向がある
(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



これらの結果から、他者との関わりを大事にし、互いに切磋琢磨しながら充実した生活を送っていること、また、自分で考えて学習を進める自立学習に取り組むことができるようになってきていることが伺えます。ただ、個人差はあり、休日の学習に関しても、学習時間が短かったり、全くしなかったりする児童も多い傾向があるようです。自らの夢や目標達成に向けて、自分に必要な学習内容と時間を考えていけるよう、今後も支援していきたいと思えます。

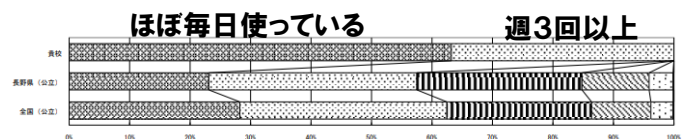
3 今後の取組みの重点

(1) 思考力、判断力、表現力等の育成に向けて協働の学びの「質」を高める

児童質問紙の「5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」という質問項目について、本校は「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した児童が、県、全国平均よりも高い結果でした。しかし、「1」で前述したように、「文章を読んで理解したことに基づいて」「条件を満たして」自分の考えをまとめるところに課題があります。つまり、他から求められていること、問われていることを的確にとらえ、目的に応じて情報を取捨選択して表現する力を育てていく必要があります。そのためにも、友との対話を通して粘り強く探究していく協働の学びをさらに推進し、多様なものの見方、考え方に触れながら試行錯誤したり、複数の情報を整理し、思考や追究過程を言語化し、練り上げていく機会を増やしたりする等、思考力、判断力、表現力等の育成に重点を置き、日々の授業改善に努めてまいります。

(2) 主体的、対話的で深い学びに向けたICT機器の効果的な活用

児童質問紙の「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使ったか」という質問項目の結果を見てもわかるように、本校でもICT機器の活用がかなり進んできています。どの学年においても日常的な学習ツールの一つとして活用していくとともに、子どもたちの主体的な学び、協働的な学びの実現に向けた「質」の高い効果的な活用となるよう、ICTに関する研修や実践を今後も継続していきます。



児童1人1人の学力向上を目指して、これからもご家庭と協力しながら取り組んでまいりたいと思えます。今後ともよろしくお願いたします。

(文責：研究主任 牛丸光恵・教頭 山田綾子)